

Braintech Library Report

ブレインテック・ライブラリー・レポート

Vol.6



東京学芸大学附属世田谷中学校 図書館

遠隔授業からのスタート。図書館の利用
方法を含め、学習方法をきめ細やかに支援

湘南鎌倉医療大学 図書館

コロナ禍でも先生と司書の二人三脚で
授業と図書館の連携を

東京学芸大学附属世田谷中学校 図書館

遠隔授業からのスタート。図書館の利用方法を含め、学習方法をきめ細やかに支援

湘南鎌倉医療大学 図書館

大船駅から湘南モノレールで1駅、真新しい校舎と植栽のコントラストが美しいキャンパスを構える湘南鎌倉医療大学は「生命だけは平等だ」という理念の下、「いつでもどこでも誰でもが最善の医療・ケアを受けられる社会の構築を目指し、日々研鑽する医療人を育成する」という建学の精神で、2020年4月に開学。2022年4月には大学院設置も予定されています。図書館長の^{くましろ}神代教授、教務部長の近藤様、図書主任の坂本様にお話をうかがいました。

コロナ禍でのスタート、 学習環境をきめ細かくサポート

——校舎のエントランスを入ると、すぐ目に入る場所に図書館があります。高い書架は図書館の奥の方にあるので、明るくて入りやすい雰囲気ですね。



神代：設計段階ではフロア全体に書架が配置される予定だったのですが、図書館には本を集める場所、本を静かに読む場所以外に、ラーニングコモンズという役割もあるので、高い書架は全て奥にもっていくことにしました。アクティブラーニングを実践できるよう、机や椅子も可動式のを置いています。もちろん、静かに本を読みたい人もいますので、窓際には固定の閲覧席も設け、共存を図っています。蔵書は段階的に増えていく予定で、電子資料の充実にも力を入れています。

坂本：電子ブック・電子ジャーナルは海外文献を主に契約しています。また、今年は利用できるデータベースを拡充しました。

——快適な空間と便利な電子の資料、どちらも魅力的ですね。しかし、開学がコロナ禍と重なり、当初学生さんたちは図書館の利用もままならない状況だったのではないのでしょうか？

神代：今は対面授業を行っていますが、去年は5月末まで学生がキャンパスで一堂に会することはありませんでした。また、クラブ活動もスタートできませんでした。そういったこともあり、コミュニケーションを自由に取れる環境とは言い難いので、グループで討議したり一緒に勉強したりというようなことは、開学1年目の去年はあまりできませんでした。

——図書館のオリエンテーションなども行いづらい状況だったと思いますが。

神代：電子ジャーナルや電子ブックなどを自宅から利用できるようにしていますが、まずはそういったものを使えるようにするために、電子機器の取り扱いからスタートする必要がありました。基礎ゼミナールという、学習方略を教える授業がありますが、その授業の最初の8時間を費やして、自宅で自由にパソコンが使えるように、通信環境の確認なども含めてノウハウを学生へ提供しました。



——図書館の利用以前に、自分自身で学習する土台を作らなければいけなかったということですね。

近藤：6月から授業が始まったものの、遠隔授業からのスタートだったので、バタバタでした。まずはとにかく学習環境を整えることを行い、自宅で学習するパソコンが用意できない学生にはノートパソコンの貸し出しも行いました。



湘南鎌倉医療大学 図書館

〒247-0066

神奈川県鎌倉市山崎 1195-3

TEL: 0467-38-3131 (代表)

<https://www.sku.ac.jp/>

神代：あの時期は、先生たちも遠隔授業のためのスライドを作り、原稿を準備し、基礎看護技術の授業では先生がビデオに登場して実習の環境を案内するなどして、新しい教材を作っていました。

近藤：先生たちが研究室で授業の配信をすることになり、学内の通信環境も当初の予定より増強しなければならませんでした。もう少し、もう少しとその都度必要に応じて対応してきました。

——様々な形で、臨機応変にきめ細かく学生さんの学びを支援されてきたことに驚きました。なかなか大変だったのではないのでしょうか。

近藤：そうですね、普通の授業をやった上での遠隔授業ではなく、新入生に対して最初からもう全く授業ができないというところからのスタートだったので……

坂本：図書館としては、基礎ゼミナールや情報リテラシーの授業で医中誌の使い方なども指導してくださるので、とてもありがたいです。

神代：医療の分野は情報の拡大が激しいので、例えば10年前に発行された本や資料は内容がかなり古くなっています。図書館の蔵書として、そういったことに対応するためにも電子ジャーナルや電子ブックは必須のものです。これから大学院ができるので、さらに蔵書を充実させていきますが、電子の資料もさらに増やしたいと思います。ですから、

それらを使いこなせるスキルも必須なのです。

専門分野だけでなく幅広い知識を

——書架を拝見していると、看護分野に限らず、様々な分野の蔵書がありますね。

神代：看護学部でも、基礎的な素養として自然科学分野全般の知識が必要です。基礎生物、基礎医学、解剖生理、生化学など全部教えるので、自然科学分野の文献も必要とされます。もちろん、この図書館の蔵書だけで賄うことはできませんので、相互貸借なども活用していくことになります。

坂本：保健師課程もあるので、福祉分野の蔵書も多くあります。



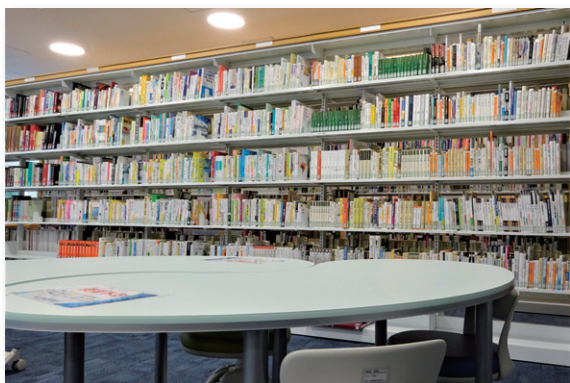
——非常に広範な分野にわたるのですね。

神代：本学では、病院に勤める看護師の養成にとどまらず、災害看護とか鳥しょ看護といった分野で活躍できる人材、グローバルに活躍できる人材を育成しようとしています。ですから、そうした分野の文献もあります。

坂本：ほかに、特色ある授業の一つとして「鎌倉の文化と歴史」というものがあり、地元鎌倉に関する資料も揃えています。

神代：画集や文学全集なんかもたくさんありますよ。





——専門知識だけでなく、教養的なものも重視されているということでしょうか。

神代：看護師の仕事は、人間を相手にするものです。病気を治すのではなく、人間を癒すのです。ですから、患者さんに寄り添うという姿勢が大切です。そうすると、患者さんが背景にもっている文化的なものなど様々なことを理解して対応できなければ困りますよね。

コンピューターで言えば、演算速度を競うような勉強ではなく、どれだけ多様なソフトウェアを備えていけるかといったことが大事になってくる。だから、図書館の蔵書にもそうしたことが反映されています。

——図書館として、これから予定されている取り組みなどがありますか？

神代：もともと地域開放の構想がありましたので、コロナが落ち着いてきたら行っていきたいです。また、系列の病院に勤める看護師たちが、学びなおしたいときにも利用してもらえればと思っています。それから、学生が地域の行事に参加したり、地域にある様々な学校や施設と連携したりといった取り組みも、今後は行っていきたいと考えています。

情報館のチャットサポートや オンラインセミナーも活用

——図書館のオープン時から情報館を導入していただきましたが、お困りのことなどはありますか？

坂本：本学の図書館の規模にあったシステムということで



情報館を導入したと聞いています。実際に利用していて便利だと思うのは資料や利用者のデーター一括登録や一括変更ですね。日々の業務で特に困っていることはありませんが、先日ちょっと問い合わせをしようと情報館のサポートページを見たら、画面右下に「ご相談ください」のチャットがあったので、利用させていただきました。おかげさまですぐに解決できて、とても助かりました。



——昨年新しく始めたチャットサポートを早速ご利用いただきありがとうございます！また、情報館の操作方法を学ぶオンラインセミナーもコロナ禍になってから始めたものですが、こちらは何度かご参加いただいていますね。今後に向けて、サポートサービスについて、ご要望などはありますでしょうか？

神代：セミナーをするから集まってくださいと言われても、それに時間を合わせないといけないので、オンデマンド式でいつでも見られる動画になっているといいですね。オンラインで行った時の録画を残しておくのでもいいと思いますよ。

——実は、ちょうど今オンデマンドで視聴できるセミナー動画を準備しており、もうすぐご利用いただけるようになる予定です。完成したら、ぜひご活用いただければと思います。

来年度には大学院ができ、図書館もさらに充実していくことですので、システムの面でこれからもしっかりサポートさせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

システム構成	基本システム 2 台、自動貸出機 1 台（ネットワーク）、NACSIS 接続システム（CAT/ILL）、OPAC4（外部公開）
蔵書数	図書約 1 万冊、雑誌 47 タイトル ※この他に電子ブック・電子ジャーナルを契約
導入年	2020年

データは2021年10月現在のものです

コロナ禍でも先生と司書の二人三脚で 授業と図書館の連携を

東京学芸大学附属世田谷中学校 図書館

東京都世田谷区の閑静な住宅地の中にある東京学芸大学附属世田谷中学校は、教育者の養成を目的とする国立大学法人東京学芸大学の附属学校の一校として、一般中学校と同様に中等教育を行うほか、教育の理論と実際に関する研究および実証、学生の教育実習の実施にあたる使命を持つ伝統校です。図書館へおじゃまして司書の村上恭子様にお話をうかがいました。

コロナ禍で、自宅から資料検索 始めました

——図書館に入ると明るい空間が広がり、たくさんの本と展示が目に入ってきます。

図書館は1960年代末に建てられた校内で最も古い建物にあります。広さは144平方メートルと決して広くはありませんが、蔵書は約2万3千冊あります。最近話題のテーマや授業の課題で扱ったテーマの展示などを行っています。



——廊下の壁に生徒さんの課題の成果物が貼ってあり、興味深く拝見しました。こちらの学校では授業と図書館の連携が盛んだとうかがっています。

本校の特徴的なカリキュラムとして「テーマ研究」があり、2～3年生が自分で選んだテーマで調査・研究を行い、レポートにまとめ、プレゼンテーションするというものです。生徒たちを取り巻く今日的な課題などをもとに、教科の枠にとらわれない横断的・総合的な学習を行っており、図書館も活発に利用されています。授業と図書館の連携には「3年間で図書館を使えるようになってほしい」という目的もあります。

——緊急事態宣言中ですが、登校は制限されているので

しょうか。



1年生 地理的な視点で本を読み、POPを描こう

現在は学年ごとの登校になっていて、例えば今日は2～3年生が登校で1年生が自宅でオンライン学習、という具合です。

——昨年夏に情報館のOPACを公開されましたね。

以前は生徒が毎日登校していたので、自宅から検索する必然性をあまり感じていませんでした。しかしコロナ禍で生徒が通学できなくなり、これは必須だろうということになりました。ちょうどその頃、カーリル社が学校向けに無償で蔵書検索サービスを提供したと聞いて、まずそちらに申し込みました。その後改めてブレインテックに相談をし、昨年7月からは情報館のOPACで自宅から検索と予約ができるようにしました。その際、ブックリストの作り方や、お知らせ機能の使い方などのアドバイスをいただき、導入もスムーズで今のところ快適に使っています。

——生徒さんが自宅から検索できるようになって、大きな変化や気付かれたことはありましたか。

家でする検索は図書館でする検索とは違うということです。図書館で本を検索する時は時間も限られているので、必要な本を検索して棚から持っていきます。それが家だと時間がありますから、キーワードで検索して、あんな本もこんな本もあるんだということになるんですね。今まで動かな



東京学芸大学附属世田谷中学校 図書館

〒158-0081

東京都世田谷区深沢 4-3-1

TEL : 03-5706-3301 (代表)

<https://gakuseta.opac.jp/>

かった本が検索されて予約されるようになったことで、家から検索するのは実はとても大事なことだったのだと気がきました。

——なるほど、目に見えて違いがあったんですね。

さらに国語の先生に相談して生徒に課題を出してもらいました。自分の関心のある事柄がNDCの3桁では何になるかを調べ、OPACで図書館にどんな本があるか検索して1冊選んで読む。予約して借りることで、生徒は「棚を見ないで本を借りる」体験をすることになります。その上でその本がイメージ通りか違ったか、どんな本だったか答えてもらったところ、なかには現物を見たら選ばないような本を読むことになった生徒もいました。この違いを知ることが大事で、この課題では分類を意識してもらうことと、OPACがどんなものかを知ってもらう狙いがありました。



図書館 TOP ページ

——まさに体験学習ですね。電子書籍サービスも導入されたと聞きましたが、こちらもコロナ禍の影響でしょうか。昨年4月5月は生徒が登校できず、図書館も開けられなかったもので、生徒に本を手にとってもらえません。そこで1~2年生は定額制の電子書籍サービスを1年間契約し、学年全員が同じ本を読めるようにしました。ここでも国語の先生に電子書籍と紙の本を選んでそれぞれの違いを答える課題

を出してもらいました。以前は持ち帰るのを躊躇していたような厚い本をそれと意識せずに読むことになったという生徒もいました。課題などで読まないといけない本は電子がよくて、気に入った本は紙でほしいといった声もありました。

授業と図書館をつなぐ読書課題

——課題によって図書館の使い方を覚える、一石二鳥ですね。以前の学びは「知識を得る」面が強かったのが、学習指導要領の改訂などにより、最近は「学び方を学ぶ」という方向になってきていて、そこが図書館を使った課題とマッチしているように思います。一方で、GIGAスクール構想が進んで生徒1人1台タブレットが支給されるようになると、生徒は図書館を素通りし、授業でも図書館が使われなくなるのではないかと、言う人がいます。実際、コロナ禍よりも以前、4~5年ほど前から貸出件数は減っています。スマホの普及で、動画やネット上のコンテンツという選択肢が増えたこともあるでしょう。

——大人の私たちでも、常にインターネットに触れるようになって、本を読む機会は減っていると感じます。

確かにちょっとした調べ物にはネットが簡単だと思います。ただネットの情報は並列で、重み付けがわからない。その点本は全体像があって、今読んでいるのは全体のどこの部分かということがわかります。また最近盛んに言われている探究学習になると、複数のものと比較したり、おおとの情報にあたったりすることになるので、タブレットだけでは難しいでしょう。本が必要ない探究はない、よって本が要らなくなることはないと思うのです。ある人の考え方をまるごと知るといっても本が適していますし、こどもたちには本を1冊まるごと読む体験をしてもらいたいと思っています。

——本をまるごと1冊読むのは時間も気力も必要ですね。

以前生徒に読書についてアンケートを取った際、時間が少ないので学校で読書の時間があるといい、何を讀んでいいかわからないので課題が出されるといい、という意見が結構あったんです。そこで授業の課題として本を読む機会を作ってもいいのかなと思いました。

——読書を積極的に授業に絡めていこうということですね。本校では毎年新3年生が、1学期に社会科で第一次・第二次世界大戦の授業を受けます。それに合わせて読書課題を出せないかと思い、国語の先生に相談したところ、戦争に関する本を読んでそれが誰の視点によるものか答える、という国語的な課題を出してくれました。そのタイミングで社会科の先生から、春休みに、戦争に関する本を読む、映画を観る、インタビューをするなどして、新学期に1分間スピーチをする課題を出すので、図書館の戦争に関する本を集めてほしいと言われ、うまく話がまとまりました。



戦争関連の資料を読む 73 回生

——社会と国語の課題を一度にできますね。

生徒にとってはこれこそ一石二鳥、一挙両得です（笑）。その後同様に家庭科の課題に合わせて国語の課題を出してもらい、「食と健康」に関係する本のリストを作りました。同じ1冊の本を読んで、両科目のそれぞれの課題に答えるというものです。

——これもまさに授業と図書館の連携ですね。

先生方は図書館のためではなく、ご自身の教科の課題として取り組まれます。また担任制の小学校と違い、中学校は1人の先生の課題でその学年の全生徒に図書館を使ってもらえるので、全ての授業・全ての先生が図書館を使う必要はありません。図書館の使い方は学びの中で使っていきたいと身につくまでから、先生がどういう授業をしたいのかに対して「図書館がどう支援できるか」をすり合わせる事が重要です。

学校図書館はリアルなものに 出会える場所

——他の図書館や司書の方たちとの交流もあるのでしょうか。図書館はネットワークが大事だと考えています。学芸大学附属の学校の司書は現在9名ですが、情報交換ができて、つながっているのは心強いです。以前は月1回顔を合わせ

ていたのが今はオンラインになり直接会えない寂しさはありますが、離れていても気軽に話ができる良さはありますね。

——先日、ブレインテック「学校図書館ユーザーの集い」のオンライン開催にもご参加いただきましたが、いかがでしたか。

色々な地方、なんとタイからも参加されていて、バーチャル図書館見学があって、オンラインならではのと思いました。情報館を使われているのは図書館が充実している私立の中高が多い印象なので、そういう学校の司書さんとなることができ、他校の様子を知ることができる良い機会だと思っています。

また、管理ソフトについて、小中高の図書館では資料の管理ということより、いかに使ってもらおうかということに主眼が置かれていると思うので、その意味でも参考になります。

——情報館を長年使っていただいています、図書館のお役にたっているのでしょうか。

1990年代の学校のコンピューター整備推進の時期に、図書館にも予算がついて導入することができました。当時も使い勝手が良い印象でしたが、今はますます進化していますね。図書館とコンピューターは相性がとても良く、まず貸出が倍以上に伸びました。学校図書館ではいまだに管理ソフトを入れておらず、手で貸出や統計を行っているところがありますが、システム化することで貸出処理や統計の手間が減って、その分を他の仕事に回すことができる、それが自動化の鉄則だと思います。

——これからの展望などありましたらお聞かせください。

こどもたちには本を読むのは楽しいなと思ってもらって、これから先も本がある生活を送ってほしいと思います。一方的に押し付けたくはないので、面白い場所を作りたい。そして、先生たちにも図書館を活用してもらい、こどもたちの学びを一緒に支援していきたいです。

どんなに電子図書・電子図書館が普及したとしても、リアルなものとの出会える場所が必要ですね。特に思春期という感受性が強い時期にいろんなものに触れて出会ってほしいので、図書館はそのための入口のような存在でいたいと思っています。

——学校図書館の使命と活動について貴重なお話をお聞きすることができました。本日はありがとうございました。

システム 構成	基本システム 1 台、館内用 OPAC1 台（ワークグループ）、OPAC サービス（基本版）（外部公開）
蔵書数	図書 2 万 3 千冊、雑誌 11 タイトル、映像資料 約 100 点
導入年	1991 年

データは2021年10月現在のものです



図書管理システム

情報館 ver.9

中小規模の図書館に最適な
ベストセラー図書館システム

導入してからも、二人三脚で

✓ メーカーの直接サポートだから迅速対応

開発元で、図書館システムの専門メーカーである(株)ブレインテックが直接サポートサービスを行うので、対応が迅速。
お問い合わせやトラブル発生連絡受付後の初動対応の迅速さは、多くのユーザー様からご評価いただいています。

✓ シンプルで安定したシステム

全国の中・小規模図書館で選ばれている「情報館」は、安定稼働にも定評があります。さらに、専用のバックアップツールが無くても簡単にデータのバックアップができ、万が一の復旧も容易で迅速です。

✓ データのインポート・エクスポートが自在

システムで管理しているほとんどすべてのデータ(資料データ、利用者データ、各種マスターデータ等)がアプリケーション上で自由にテキスト形式でインポート・エクスポートできます。
また、統計・帳票データのエクスポートも可能です。

✓ 時代に合わせたバージョンアップ

図書館システムの導入は、ゴールではなくスタートです。5年後、10年後も安心して快適にご利用いただけるように、新OSへの対応やユーザー様からの要望を取り入れたバージョンアップを定期的にご提供しています。



OPACは図書館の顔

✓ クラウド型OPACだから導入もスピーディ

サーバー不要だから、すぐにはじめられます。システム担当者が常駐していない小規模図書館でも安心してOPACが公開できます。

✓ 手頃な料金で最新機能を

ウェブアクセシビリティ対応、レスポンスウェブデザイン(スマホ・タブレット表示)も好評。さらに、オプションのデジタル資料公開機能で貴重資料や独自資料の公開も。

情報館オープンデーのご案内

オンラインで開催中

毎月1回、「情報館」や「カーリルタッチ」などの最新の図書館システムの体験をすることができるオンライン形式のイベントを開催しています
<https://braintech.co.jp/event/openday>



Zoom等を使用して個別相談・デモンストレーション承ります。
アクセスは
左記URLからお気軽にどうぞ。

ブレインテック・ライブラリー・レポート Vol.6

発行日／2021年11月1日

発行元／株式会社ブレインテック

〒141-0022 東京都品川区東五反田1-7-6 藤和東五反田ビル 3F

TEL.03-3449-7261 <https://braintech.co.jp/>